

TURN JOURNAL

ターンのジャーナル

特集

AUTUMN 2020 ISSUE 05

距離と交流

CONTENTS

目次

- 距離って何だ？ あなたと私のディスタンス ——— 2-4
 - 公共性への距離 — 複数性の実現のために 百木 漠 [大学研究員 / 社会思想史]
 - 他者との距離はなぜ生まれ、何を生むのか 上野吉一 [名古屋市東山動植物園企画官]
 - 遠くて近い 近くて遠い この世界を共にするまだ見ぬあなたと 小澤いぶき [児童精神科医]
- コロナ禍でも居場所を作り続ける理由 久保田翠 [認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ代表理事] ——— 5
- 気持ちの距離は球体の上にある 日比野克彦 [TURN監修者 / アーティスト] ——— 6-7、12
- 対面信仰 木村大治 [人類学者 / 文化人類学、宇宙人類学、コミュニケーション論] ——— 8
- インタビュー 距離を超えて — 言ろうの文化と出会う
 - 富塚絵美 [アートディレクター / パフォーマー]、佐藤慎也 [建築家] ——— 9-11

PURPOSE OF

今号の趣旨

昨今のコロナ禍では、人と距離を取ることが求められる。行政による「3密を避ける」「ソーシャル・ディスタンス」の号令のもと、人との距離は2メートル以上あけ、会話も最小限に。交流はオンラインベースになり、距離を超えたコミュニケーションが必要とされる。この物理的な距離が心の距離にどう影響するのか、漠然とした不安を感じることもある。

一方、介護や介助の現場では、距離を取ること自体が難しい人もいれば、心に病を抱え、物理的・精神的に距離を保つことのできなりの育んできた人もいて、「ソーシャル・ディスタンス」の一般論は必ずしも馴染まない。規定の「距離」の枠組みに人を押し込めようとする「差別や偏見、分断」が生まれているようにも見える。

富と力を求めて自然を変え、格差を広げてきた人類。コロナ禍で、世界が同じ状況を共有し、人々との様々な「距離」が可視化され、他者への無関心や無理解が浮き彫りになった。間違はなく、自然との距離についても考え直す時期に来ている。

これまでの形で、人と人とが直接出会い、場と時間を共有することが困難となった現在、「交流」をキーワードに活動を続けてきた「TURN」が、どんな「つながり」に可能性を見出せるのか。物理的には距離を保ちながら、他者への想像力を育む術とは？ また、意見や立場の違いによる距離の自覚は、「つながり」への契機になりうるのか……。 「距離」と「交流」、その背後にある「つながり」について考えてみたい。

(永峰美佳)

TURN JOURNAL

とは？

障害の有無、世代、性、国籍、生まれ育った環境などの背景や習慣の、違いを超えた出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト「TURN」。一人ひとりの異なる特性を掘り起こし、あらゆる意識や枠組みを更新していくことを目指しています。「TURN」の取り組みとそれらの意義を、様々な角度から伝えていく定期刊行物『TURN JOURNAL』は、これまで冊子という形で、年に1~2回発行してきました。2020年度は、日々変化してゆく「TURN」とそれらを取り巻く世界について、その時々々の声や状況を伝えるメディアとして、装いも新たに、夏号に続き、秋・冬・春と定期的に発行していきます。

文化でつながる。未来とつながる。

Tokyo Tokyo
FESTIVAL

https://turn-project.com/

TURN公式ウェブサイト

A

距離って何だ？

あなたと私の ディスタンス

オンラインの交流は、親しい相手や同じ意見をもつ者どうしは行いやすいが、主張が異なる人との溝は埋まりにくい。さまざまな趣向をもつ人々との「公共性」の構築に向けて。

場

公共性への距離 — 複数性の実現のために

百木 漢 「大学研究」社会思想史

「社会」と「距離」の反転
「コロナ禍で『ソーシャル・ディスタンス』という言葉が定着したが、考えてみると、これは奇妙な言葉の組み合わせである。日本語に直訳すると「社会的距離」だが、つまりは「社会的であるために距離を取らなさい」というメッセージである。人と人との距離はメーターの上空けて、互いに触れ合ったり、接近したりすることのないようにしよう、という指が各国政府から発せられた。しかし、「社会的であるために」と人との「距離」を取りまじょう、というのは、これまでの人類史で、ほとんど発せられてこなかったメッセージではないだろうか。明治初期に *society* という英語が日本で広まり始めたとき、福沢諭吉はこれを「人間交際」と訳したという。人と人が交際する、つまり「社交」するところがソサエティの根本だろう、と福沢は考

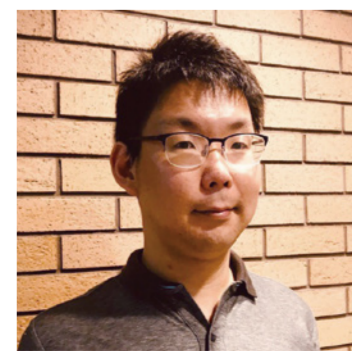
たのである。柳父章「翻訳語成立事情」によればすでに幕末には、フランス語 *society* や英語 *[social]* の訳語として「仲間、懇交」や「仲間、連中、社中」という言葉が辞書に登場していたという。こうした訳語からも、すなわち「社交」の成立においては、人と人との交際、従来「社交」がその基礎にあると見られてきたことが分かる。その場合には、当然のことながら、人々が物理的空間に集い、対話し、共同で何事を行おうかが想定されていた。

しかし現在では、それは正反対のメッセージが発せられている。つまり、われわれは「社会的」であるために「社交」を控え、人と人との間に「距離」を保ちまじょう、と言われている。現状で「社交の場に参加し、活発な会話を交すのは反社会的」であると見られる。これは新型コロナウイルスの出現以前には全く考えられなかった事態である。

「公共性」成立のための「間」
アレントは「公共性」が成立するためには「複数性」が必要であると述べていた。共通の問題関心をもつ人々が、複数の意見を交換し合い、議論を深めていく。それを通じて、多様な人々が同じ世界で共生するための方法を探っていくこと。これがアレントの理想とした政治であり、公共性であった。「距離」を欠いたソーシャル空間は即時的で効果的ではあるが、複数性「を欠いたものになるだろう。物理的空間において一定の距離を取りながらも、意見や趣向の異なる者と交際していくことが、公共性を成立させるための条件になるはずだ。

例えば、職場や学校や近所などで「この人ちょっと苦手だな」とかあまり気合わないな」という人とも、適度に距離を取りながら、相手の反応を伺いながら、それでもそれなりに付き合っていくことが、「社会」の成立のためには非常に重要である。ソーシャル・メディア上ではそうした曖昧な関係性が消失し、親密性と敵対性の「間」がなくなってしまう。

「距離」と私たち①
「ラント工房 LaMano」では、飛沫防止対策として、同じ方向を向いて一列に並んで昼食を食べている。この様子が「電車に乗っていることを想起させ、電車好きのメンバーから大好評。窓から外が見える場所が特等席なのだとか。



参考文献
* アーレント「人間の条件」志水達雄訳、ちくま学芸文庫、1994年
* 柳父章「翻訳語成立事情」岩波新書、1982年
ちくま・ばく「社会思想史。現在、立命館大学専門研究員。アレントの思想を研究。京都大学大学院人間・環境学研究所博士後期課程修了。博士（人間・環境）。著書に『アレントのルックス』岩波書店（人文書院）、2018年、「漂泊のアレント 戦場のユース」ちくまの『20世紀の旅路』岩谷洋志との共著、慶應義塾大学出版会、2020年、『アレント読本』日本アレント研究会との共編著、法政大学出版局、2020年等がある。

空間が私たちの間に生じ「決心距離」である。距離を全く欠いた空間においては、われわれは他者と一体化するか（親密性）、あるいは完全に他者と隔てられているか（敵対性）、のどちらかになりやすい。親密な人との関係性はより論化されるが、親しくない人との溝はほとんど埋まらない。意見を同じくする者との間の議論は盛り上がりやすいが、異なる意見をもつ者との間の議論はなかなか深まらないう。それだけでなく、オンラインでは、親しい者どうし、意見を同じくする者どうしで集まりがちである。ほとんどの場合、われわれはわざわざオンライン上で、意見が違つた話聞いごとにはないだろう。つまりインターネットは、同質的なコミュニケーションには向いているが、複数の多様なコミュニケーションには向かないのではないか。こうした傾向は、コロナ流行以前から SNS などですでに確認されていたものだったが、そうした状況がコロナ禍でいっそう加速されてしまった印象がある。

「公共性」成立のための「間」
アレントは「公共性」が成立するためには「複数性」が必要であると述べていた。共通の問題関心をもつ人々が、複数の意見を交換し合い、議論を深めていく。それを通じて、多様な人々が同じ世界で共生するための方法を探っていくこと。これがアレントの理想とした政治であり、公共性であった。「距離」を欠いたソーシャル空間は即時的で効果的ではあるが、複数性「を欠いたものになるだろう。物理的空間において一定の距離を取りながらも、意見や趣向の異なる者と交際していくことが、公共性を成立させるための条件になるはずだ。

例えば、職場や学校や近所などで「この人ちょっと苦手だな」とかあまり気合わないな」という人とも、適度に距離を取りながら、相手の反応を伺いながら、それでもそれなりに付き合っていくことが、「社会」の成立のためには非常に重要である。ソーシャル・メディア上ではそうした曖昧な関係性が消失し、親密性と敵対性の「間」がなくなってしまう。

複数性には距離が必要である
政治思想家のハンナ・アレントは、尊敬や友情のためには、その人との適切な距離が必要であると述べている。彼女の表現によれば、それは「世界の

参考文献
* アーレント「人間の条件」志水達雄訳、ちくま学芸文庫、1994年
* 柳父章「翻訳語成立事情」岩波新書、1982年

ヒト

他者との距離はなぜ生まれ、何を生むのか

上野吉一 「名古屋市東山動物植物園企画官」

ヒトは生物学的に内と外を区別し、他者との間に壁を作り、距離を保つとする。時に差別を生むこの習性、わたし達は克服したら良いのだろうか。

1 他者との距離
「相手のコップが中央線を越えてる……」
わたし達は、今、他者との距離に敏感になって過剰にこのことが強調されている。世界中を席巻しているコロナ禍によって、他者との距離が単なる物理的距離以上の意味を持つようになった。図りももくへる人が意識するようになった。社会はメーターの間隔を要求し、一方で時に心が接近を求めるところによる齟齬が、距離の存在を意識化する。

かを行った時にでも実験を試してみたい。テーブルに向かい合って座った時、相手のコップが仮想の中央線を越えて自陣に置かれると、プレッシャーを感じることもある。それが社会的な距離を持っており、意図や関係性によって変化させることも生きているのである。

3 他者との距離が内包する意味
「一緒に食事をするで親しいなのはなぜ？」
他者の認識は、自ととの関係を生む。一つとして自らに属する内集団と、それと識別される外集団の区別だ。つけた他者との関係性は、植物や昆虫など、広範囲に広い生物の中に見られる。人は言語を解する哺乳動物であっても、親が使う言語とそれと異なる言語を内包し、親の言語に親和性とそれを異なる言語を内外と識別する態度は、価値観を身に付ける以前に、すでに原初的な反応として存在している。

4 距離が生む軋轢とその解消を目指す
「近づきたい相手、遠ざけたい相手、……」
他者との「距離」とは、物理的のみならず心理的なものとして存在し、さまざまな意味が含まれてきた。コロナ禍、わたしたち意識するものはなく内集団を築くこととする性質を持つていた。それが多様性を重んじようとする現代の価値観に対し、齟齬を生み出す。多様性を重んじていこうとすれば、異なるものとの距離を短く、あるいは柔軟に近づける必要がある。しかし、この本性は、容易に他者との間に壁を立て、距離を作る。

「距離」と私たち②



「ハート」へ来る人々にはそれぞれの現実があり、それぞれの神様や物語がある。時として幻覚や妄想と言われてしまふけれど、彼らの物語をアーティストの深澤孝幸氏の協力を得てお守りにして見た。みなさんにも御利益があるかな？

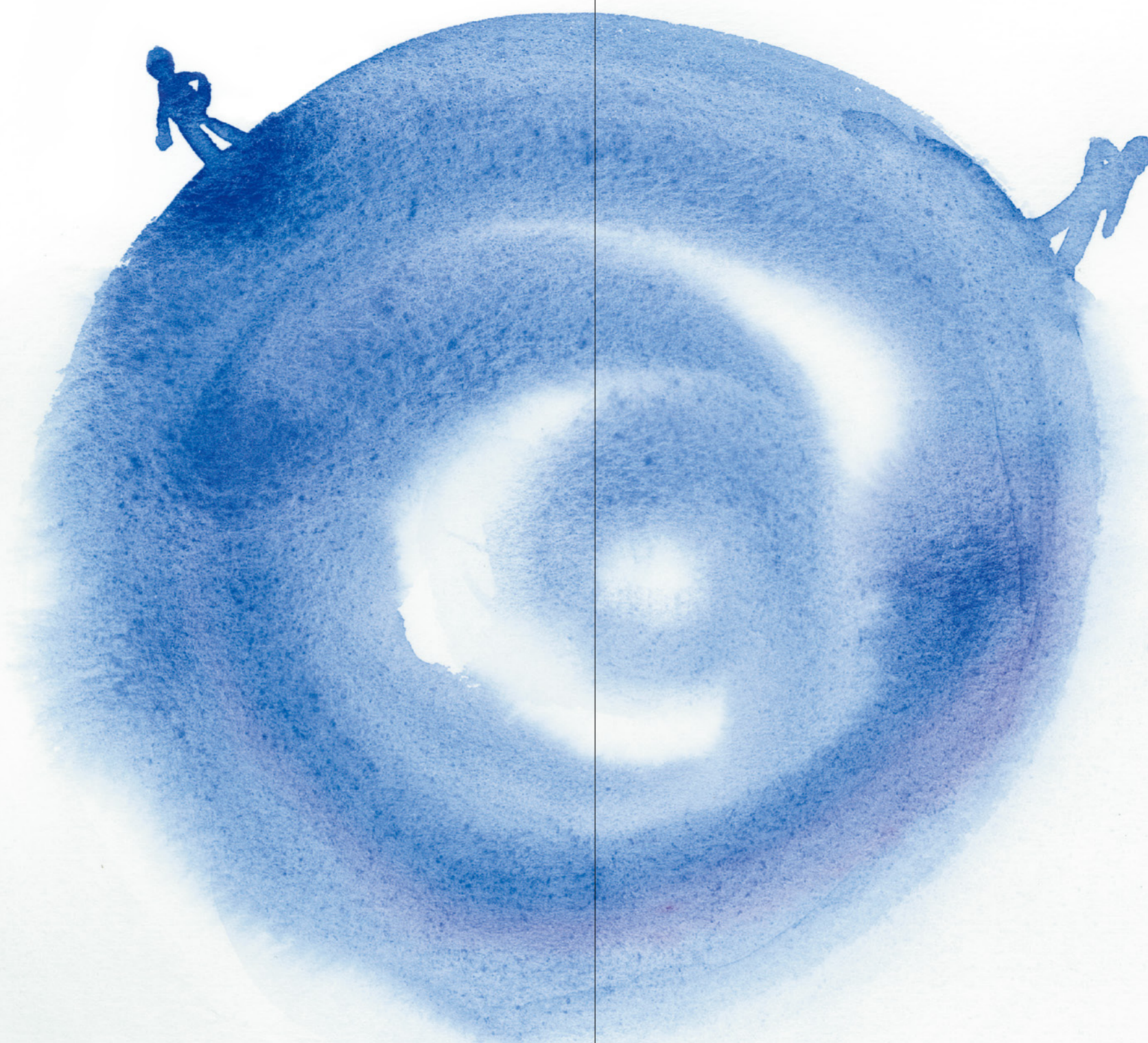
2 他者の認識
「恋愛も体臭で好き嫌いが分かれる」
他者との距離を取るためには、自分で他者を認識する必要がある。わたし達は、さまざまな情報を通じて他者を捉えている。ヒトは視覚動物と評されるように、目からの多くの情報を得る。それは単に誰かがいるという姿を確認するに留まらず、わずかな表情や顔色もさまざまな情報を与えてくれる。声色や足音もまた、他者の存在に気づかせる。声だけでなく、相手の様子を伝える情報を含んでいる。嗅覚も、実はかなりの働きをしている。緊張した

「愛も体臭で好き嫌いが分かれる」
他者との距離を取るためには、自分で他者を認識する必要がある。わたし達は、さまざまな情報を通じて他者を捉えている。ヒトは視覚動物と評されるように、目からの多くの情報を得る。それは単に誰かがいるという姿を確認するに留まらず、わずかな表情や顔色もさまざまな情報を与えてくれる。声色や足音もまた、他者の存在に気づかせる。声だけでなく、相手の様子を伝える情報を含んでいる。嗅覚も、実はかなりの働きをしている。緊張した

わたし達は、一面で「ヒト」を消し去ることではできないし、反対に「ヒト」として意識だけ自分を意のままにコントロールすることもできない

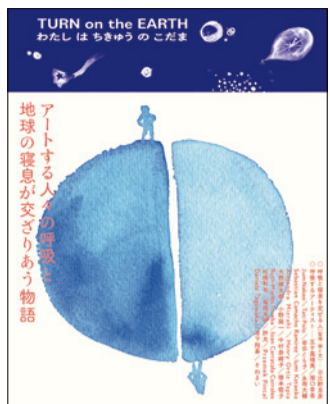
参考文献
* Palma, V., Gordon, A.R., Lecachet, C., Grazzina, A., Tunstall, J.H., & Sison, M.J. (2017). Processing of human body odors. In Springer handbook of odor, pp. 171-178. Springer, Cham.
* Donato, B., Semio, R., Alvarado, A., Vila, M., & Scandura, A. (2018). Intraspecific transmission of emotional information via chemosignals from humans to dogs (Canis lupus familiaris). *Animal cognition*, 21(1), 67-73.
* Harbeck, J., & Roberts, S. C. (2009). HVC-correlated male choice in humans: a review. *Psychoneuroendocrinology*, 34(4), 497-512.
* Krutzel, K. O., Dujardin, E., & Spelke, E. S. (2007). The native language of social cognition. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 104(30), 12571-12580.
* Samuel, L., Preis, A., Melke, A., Deschner, T., Whigg, R. M., & Crocoll, C. (2018). Social bonds facilitate cooperative resource sharing in wild chimpanzees. *Proceedings of the Royal Society B*, 295(1869), 20181842.





HIRANO
2020.10.4

BOOK REVIEW



『TURN on the EARTH
わたしはちきゅうのこども』
東京藝術大学出版会

展覧会「TURN on the EARTH わたしはちきゅうのこども」(2020年7月23日～9月6日)東京藝術大学美術館の開催に合わせて、2016～19年に海外で展開した「TURN」交流プログラム「の活動をまとめた書籍を刊行した。

p.6-7に作品掲載

ひびのかつひ「東京藝術大学美術学部長、美術学部先端芸術表現現科教授。アートを社会のなかで機能させる手法を試み、地域や多業種の人々の共同プロジェクトを展開。2015年より「TURN」の監修を務める。

2020年10月4日

気持ちの距離は球体の上にある

日比野克彦
「TURN」監修者／アーティスト

日本における道の距離は、東京の日本橋に起点がある。距離は基準点があることよって測れる。30年ほど前にシベリア鉄道でヨーロッパに行った時、ロシア号の車窓から100メートルおきにキロポストという標識が線路脇にあった。そこには首都モスクワからの距離が記されていた。数字の大きさにユーラシア大陸の広大さを実感した(地球の円周が約4万キロなのに、6000何キロなどという数字を目にした時、もはや直線ではなく円弧状の線を想像していた……)。また、その距離を表す数字は首都に対する憧れ(荒涼とした風景との落差がある都会の風景)のエネルギの度合いともいえるし、逆に、都会にはない大自然の豊かさの数値ともいえる。

距離が遠いから見えない、わからないという思考のプログラムと、距離があるから見たい、知りたい、わかりたいというプログラムがある。そのどちらの間違っているという距離が遠くなるほど、会えなくなるけれども会いたい気持ちには強くなる。きつと「の気持ちの距離も、地球の距離と同じように球体の上には存在しているような気がする。だからきつと、距離が離れていけば行き着ける、もう一つのルートがあるに違いない。

社会の動向

「TURN」では2020年6月中旬から8月にかけての、新型コロナウイルスをめぐる主な出来事を時系列で振り返る。

▼6月11日の「東京アラート」解除後も、都内の新規感染者は増加傾向。特に、いわゆる「夜の街」への注目や批判が高まる。19日、政府は観光を含んだ都道府県境をまたぐ移動の自粛を全国的に解除。また、ガイドライン遵守を条件に接待を伴う飲食業への休業要請も撤廃、イベントの開催条件も緩和。プロ野球が無観客で開幕。24日、西村康稔経済再生担当相が従来の専門家会議に代わる新組織の設置を発表。26日、国内の新規感染者が1カ月半ぶりに100人超。30日より新宿の劇場で行われた公演で集団感染。

▼1日における感染確認が、7月2日には東京で2カ月ぶりに1000人を、3日には全国で2カ月ぶりに2000人を超える。以降、7月中旬に都内、国内共に増加。6日、医療に加え経済など幅広い専門家を含む「新型コロナウイルス感染症対策分科会」が発足。12日、新型コロナウイルスの影響で開業が遅れていた北海道白老町のアイヌ文化施設「民族共生象徴空間(ウポポイ)」開館。13日、米大陸を中心に感染が拡大している状況を受け、世界保健機関(WHO)のテドロス事務局長が、「多くの国が誤った方向に向かっている」と警告。15日、東京の警戒レベルが4段階中で最も深刻な「感染拡大警戒」に。22日、東京以外を対象に、旅行代金の35%補助などを含む観光需要喚起策「GOTOトラベル」キャンペーン開始。28日、国内の死者が千人を超える(クルーズ船除く)。29日、全国で1日の感染者がはじめて千人超。岩手県で初感染者が現れ、全都道府県で感染者が確認。全国的に梅雨が

明けはじめ、本格的な夏となるも、小中高校の夏休みは大幅に短縮。各地の海水浴場の開設を中止する動きが相次いだ。隅田川花火大会(7月11日)中止、フジロックフェスティバル(8月21日～23日)延期など、夏の大イベントも実施されず。

▼8月1日、1日の感染確認が国内では2日連続で15000人超、都内では過去最多の472人。5日、日本医師会がPCR検査や抗原検査の充実を求める緊急提言。6日、東京の小池百合子知事がお盆の帰省を控えるよう都民に呼びかけた。一方、西村経済再生相は帰省自粛について国として「一律に求めるものではない」と述べた。8日、お盆休み初日、各交通機関では例年に比べ入出が大幅減。10日、第92回選抜高等学校野球大会の中止を受け、同大会に出場予定だった32校が1試合ずつを行う「2020年甲子園高校野球交流試合」が6日間の日程で開幕。アメリカで累計の感染者が500万人超(死者数16万人超と共に世界最多)。この時期、ヨーロッパで感染再拡大、防止措置が広がる。17日、4月からの国内総生産(GDP)発表。実質伸び率は年率換算でマイナス27.8%、リーマンショック後を超えて戦後最悪に。20日、新型コロナウイルス対策分科会の尾身茂会長が、第二波の流行について「だいたいピークに達したとみられる」と見解。27日、都は飲食店に対する午後10時までの営業時間の短縮要請を、23区内に限り9月15日まで延長決定(23区外は8月31日で解除)。

(杉原環樹)

編集後記

本誌に向けて寄せていただいたテキストを読んで、「距離と交流」にまつわる物理的な状況、概念的なことから私的な国内外の現場の話まで、「読者として多くの異なる次元の事柄を想起させられた。そしてそれらを表そうとしたときの文章の出だし、リズム、章立ての仕方、語り方も、実に多様であることに気づいた。

物理的な距離とは裏腹に、心的距離は遠くも近くもあり得る。一般化できないそれぞれの経験の共有こそが、社会の「多様性」を守る営みにも感じられた。どのようになっているのかを多くの人たちと共有することができるのか。文章を読み返すたびに考えていた。

事柄に含まれる行間やグラデーションを、どのように読み取るのか。一人ひとりがそれを思考したときに思い起こす「ト」や感情は、それぞれ異なるのだらう。そのことを想像する「ト」。そこに、「複数性」を社会に維持させていくための出発点があるのかもしれない。

(畑まじあ)

TURN

「TURN」交流プログラム「……アーティストと、福祉施設や社会的支援を必要とする人々が時間を重ねて交流し、共働活動するプログラム。また、アーティストによる、社会や日常で意識化されていない課題への気づきを目的としたリサーチも行う。

「TURN」LAND「……福祉施設や団体が、アーティストと共に参加型のプログラムを企画する。それぞれの場所に備わった従来の機能に、地域に開かれた文化施設としての役割が加わり、市民と共に日常的に「TURN」を実践する場を創る。

「TURN」FEST「……「TURN」交流プログラムや「TURN」LAND」を実施する、多様なアーティストや交流先の活動が一堂に集まるフェスティバル。作品展示やワークショップ、トークイベント、オリジナルプログラムなど様々なコンテンツを通じて「TURN」を体感できる。

「TURN」ミーティング「……「TURN」の可能性を共有し、語り、考え合う場。参加アーティストや交流先などの関係者と共に、各分野で活躍するスペシャリストを招き、様々な視点から「TURN」を考察する。

『TURN JOURNAL』のバックナンバーは、こちらからご覧いただけます



TURN JOURNAL
SUMMER 2020
—ISSUE 04



TURN JOURNAL
SPRING 2020
—ISSUE 03



TURN JOURNAL
SPRING 2019
—ISSUE 02



TURN JOURNAL
2018

TURN公式ウェブサイト = turn-project.com

監修＝森司/アーツカウンシル東京
編集＝永峰美佳/杉原環樹/畑まじあ/アーツカウンシル東京
田村悠貴、山口麻里菜/特定非営利活動法人「Art's Embrace」
デザイン＝星野哲也
印刷＝株式会社アトミ
発行＝公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-28
九段ファーストプレイス8階
TEL＝03-6256-8435 / FAX＝03-6256-8829
Email＝info@turn-project.com

©2020 Arts Council Tokyo, Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture
All rights reserved

TURN JOURNAL AUTUMN 2020 — ISSUE 05
2020年10月30日発行

主催＝東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京/特定非営利活動法人「Art's Embrace」/国立大学法人東京藝術大学
監修＝日比野克彦
「アーティスト/東京藝術大学美術学部長、先端芸術表現現科教授」
プロジェクトディレクター＝森司
「アーツカウンシル東京 事業推進室 事業調整課長」



「TokyoTokyo FESTIVAL」とはオリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力伝える取組です。「TURN」は、その一環として展開しています。

